

みなかみBR生物多様性調査並びに保全計画策定及び実施事業 (群馬県みなかみ町) みなかみBR生物多様性保全推進協議会

事業の背景・目的

みなかみBRは、群馬県の最北端に位置しており利根川最上流域に位置しており首都圏約3,000万人の市民の水源地域としてだけでなく絶滅危惧種を含め生物多様性保全上重要な地域である。特に、優先課題となっているみなかみBR全域のイヌワシ分布調査、ニホンジカの低密度管理の推進と市民協働による里山調査、既存の調査から分類群ごとの保全上重要な地域を把握する重点調査を通して現状把握を行う。調査結果はみなかみBR生物多様性保全実施計画に反映し、生物多様性保全ネットワークのモデルを形成することを目指す。

事業の内容

【1年目 調査体制構築及び調査分析】

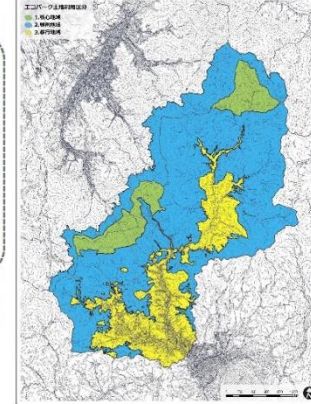
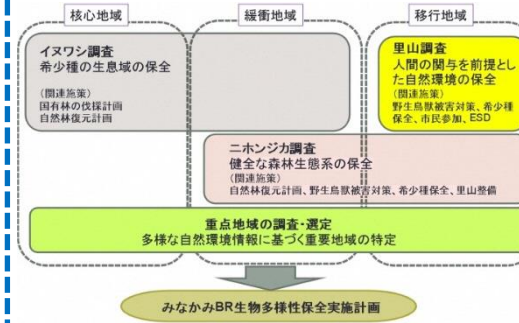
イヌワシ調査（調査体制の構築及び調査開始）、ニホンジカ調査（センサーカメラ設置）、里山調査（センサーカメラ設置）、重点地域調査（関係者会議開催、ヒアリング）

【2年目 調査体制構築及び調査分析】

イヌワシ調査（分布調査、繁殖状況）、ニホンジカ調査（分布確認、および捕獲試験）、里山調査（41地点の動植物相調査、重要地域判定）、重点地域調査（文献調査、チャツボミゴケ調査）

【3年目 ニホンジカに特化した調査体制構築及び調査分析】

センサーカメラ、GPSによるニホンジカ分布調査の実施
赤谷の森、上ノ原における捕獲試験の実施
町民参加のモニタリング体制構築
ニホンジカ管理計画策定



得られた成果

【イヌワシ調査】みなかみBR内に3つがいの生息が確認された。みなかみBR内では、赤谷プロジェクトが推進されており、イヌワシ等の猛禽類の生息に配慮した国有林の管理、施策を実施できるよう赤谷プロジェクトと連携しながら検討を進める。

【ニホンジカ調査】藤原地区や入須川地区でニホンジカが増加し、雌仔が増加しており定着の可能性が示唆された。藤原地区において町民と分布調査を継続するとともに、捕獲試験、GPSによる行動範囲の把握、管理計画策定を行った。ニホンジカの低密度管理に向けた技術開発を開始することができた。同時に行政や地権者など関係者との協議を進めることができた。

【里山調査】生物多様性保全上重要な里山の存在がわかった。放棄耕作地の増加や外来種の侵入など課題が明らかになった。

【重点地域調査】過去の調査情報をGISデータとして整理した。希少なチャツボミゴケの生育地の科学的なデータが収集できた。

2021年2月10日に「みなかみBR生物多様性調査報告会」を行い成果を町民や関係者に共有した。